

養老保険 失敗編（目的と道具の掛け違い）

ある中小企業の社長さんが、突然の心筋梗塞により亡くなってしまいました。お通夜の晩に奥様は考えました。悲しんでばかりもいられない。会社のこと、従業員のことなど、処理しなければならないことが山ほどあることを。

奥様は、お金については、あまり心配していませんでした。社長が保険好きで、月々相当な金額の生命保険料を払っていたの知っていましたので、「多額の保険金が入ってくるはずだから、とりあえずお金の絡む話は何とかなるだろう」と考えていたのです。

ところが、開けてびっくり生命保険ではないですが、社長が月々払っていたのは、すべて養老保険の保険料だったのです。すでに勉強したように、養老保険は金融資産の性格が強い商品です。この社長の場合は、そろそろ満期を迎える時期でしたので、ほとんど保障にはならず、自分で払った保険料に近いお金が返っただけでした。

これも、目的と道具を掛け違えていた悲劇です。

●貯蓄性の高い養老保険にばかり入っていると……

